

News Letter

Vol. 03

2021年4月発行

島根大学

島根県立大学

松江工業高等専門学校

米子工業高等専門学校

組織のマネジメント力向上のための オンラインセミナー

2021年2月9日(火)、広島大学 特任教授 学長特命補佐(研究人材育成担当)の相田美砂子先生を講師としてお招きし、組織のマネジメント力向上のためのオンラインセミナーを開催しました。当日は連携機関や地元企業、ダイバーシティ事業に取り組む他大学の関係者等117名もの参加者が集まりました。

まず、過去から現在に至るまでの、男女共同参画を目指す取り組みについてご紹介いただき、現状まだ日本は男女が平等に活躍できる社会になっていないことをお示しいただきました。男女平等参画の理念は75年ほど前から掲げられているにもかかわらず、未だ実現できていないということは、理念を掲げるだけでは国民の意識を変えるには不十分であるということです。

組織がうまく機能していくためには、組織にビジョンがあること、そしてそのビジョンを組織内の全ての部署の構成員が共有していることが最も重要であると相田先生は強調します。大学を例に挙げ、大学執行部から、プロジェクトや委託事業等の時限組織、そして学部・学科、さらには自分の研究室に至るまで全ての単位で組織の目的を認識したうえでマネジメントを行

い、全体が連動して動いていることが大事であるとお話しいただきました。

長年、女性を組織に取り入れることは、その組織にとってマイナスではないかと思われてきたこともありましたが、近年の研究によってむしろ多様な人材の増加は企業価値の向上につながるデータから明らかになってきました。そして、特に大学をはじめとする高等教育機関は、世界の未来を担う学生を取り巻く環境そのものであるために、高等教育機関においてジェンダーに関係なく活躍できることを示す必要があるとのこと。そのためには今、多様性を取り込み、硬直化した「組織の価値観」を変えること、私たち一人ひとりが、組織の一員として、社会人として、また子供の親として価値観を変えていくことが求められていると結論づけました。



英語論文の書き方セミナー

理化学研究所 創発物性科学研究センターの小野義正先生をお招きし、全6回の日程(2020年12月4・8・11日・2021年1月25・27・29日)で英語論文の書き方セミナーを実施しました。日本語を英訳するのではなく、英語的発想で英語論文を書くためのポイントを丁寧に解説していただきました。延べ参加人数

は、前半3日間の基礎編は353名、後半3日間の応用編は262名に上りました。事後アンケートでは、約99パーセントの方に、講演内容について「ほぼ満足」あるいは「満足」とお答えいただき、大変充実した内容のセミナーでした。



人が育つコミュニケーション・場作りを考える～ファシリテーションの役割～

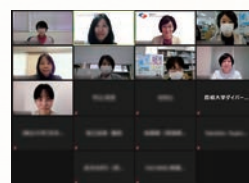
2021年3月23日(火)、岩瀬峰代先生(島根大学 大学教育センター 准教授)を講師とした「人が育つコミュニケーション・場作りを考える～ファシリテーションの役割～」を開催しました。

最初に、会議やゼミの話し合いにおいてうまくまわらないといった「困った」があったときに、それを解決するための一つの方法としてファシリテーションがあるということ、話し合いの持ち方やファシリテーションの役割、そしてコーチングとの違いを含めて説明していただきました。

続いて、ファシリテーションをうまく進めるために必要な、

視線の向け方や話し合いを見える化するツールについていくつかご紹介いただき、話し合いに参加する人が話しやすい場づくりについて学びました。

参加者からは、話し合いを持つ時に運営側と参加者の満足度をどのように高めればよいか、またファシリテーションを学生指導に取り入れるために、どう学んでゆけばよいかなどの質問があり、活発なやり取りがなされました。



SAN'INご縁ネットミーティング

分野を超えた研究ネットワーク、研究アイデアのひらめきのきっかけ、新たな共同研究などを生み出す「場」作りを目的として月に1回程度開催しています。ご縁ネットミーティングでは、「メンバーが自身の研究を中心に話題提供し、参加者でディスカッションする」学びながら交流を深める企画を実施しています。

成長期におけるリンの過剰摂取が抗老化タンパクα-klotho発現に及ぼす影響

【日時】2020年11月5日(木) 12:00~13:00
【講師】福田 詩織 (島根県立大学 看護栄養学部健康栄養学科 助教)
【参加人数】10名

成長期においてハムやウインナーの添加物として含まれるリン化合物の過剰摂取が腎石灰化のリスクを高めてしまう可能性があるということについて、マウスを用いた実験結果からご説明いただきました。また、福田先生が学生と一緒に実施している地域活動についても発表され、福田先生の教育、研究、そして地域貢献に奮闘されている様子が良く伝わってきました。



混合研究法：質的研究についての基礎と量的研究との素敵なマリアージュ

【日時】2020年12月10日(木) 12:00~13:30
【講師】岩隈 美穂 (京都大学大学院医学研究科医学コミュニケーション学分野 准教授)
【参加人数】16名

質的研究の特徴や量的研究との違いについて、たとえ話を用いながら分かりやすく解説していただき、アンケートの自由記述欄への記入事項を分析するためのSCATという手法をご紹介いただきました。そして後半は、岩隈先生ご自身が質的研究と量的研究の各特性を生かしながら実際に進めておられる、「障がい者の高齢化」調査についてお話しいただきました。



第2回研究マッチングイベント

2021年3月15日(月)・16日(火)に第2回研究マッチングイベントを開催しました。1日目は、京都大学 学際融合教育研究推進センター 准教授の宮野公樹先生をお招きし、「異分野融合の意味と意義」というテーマでお話しいただきました。宮野先生は、研究をしていると異分野融合は避けては通れないということをご自身の経験から感じておられ、京都大学で実施されている異分野融合を促進するための様々な活動について紹介いただきました。「異分野融合はむしろ学問のあり方そのもの」という言葉が印象的でした。

次に、島根大学 人間科学部講師 佐藤美先生と、松江工業高等専門学校 環境・建設工学科助教 芹川由布子先生に、学術研究事例についてお話しいただきました。両先生とも、ご自身の専門分野だけではなく異分野の研究者との共同研究についてご紹介いただきました。

当日オンラインで46名の参加者の方にお集まりいただき、チャットを用いた活発なやり取りが行われる有意義な会となりました。

小学校外国語教育の現状と課題

—子どもと教職志望学生の学びの可視化の試み—

【日時】2021年2月18日(木) 12:00~13:00
【講師】篠村 恭子 (島根大学 教育学部 英語科教育専攻 講師)
【参加人数】25名

小学校での外国語活動・外国語導入の経緯や、これまでの検証データの蓄積から小学校外国語教育において児童・生徒の英語学習への積極性が向上するなどの教育効果がある一方、教員の指導力・技術などに課題があるという報告がありました。英語学習を通じて、子どもたちが自分自身や他者に対して、また言葉自体への気づきが高まるという点で、小学校外国語教育には意義があることを示していただきました。



高専における非専門科目の科目横断授業実践と学生への影響について

【日時】2021年3月26日(金) 12:00~13:00
【講師】原田 桃子 (米子工業高等専門学校 教養教育科 講師)
【参加人数】19名

米子高専で試験的に実施した、歴史と外国語の横断講義の内容についてご紹介いただきました。歴史と英語の先生2人による合同授業という新鮮さによって学生の学ぶ意欲を引き出すことができ、授業内容の理解や関心の上昇に繋がるという効果がみられた一方で、難易度設定を誤ったり教員同士の連携が不足したりすると、学習効果が下がってしまうという課題がみられたとのことでした。

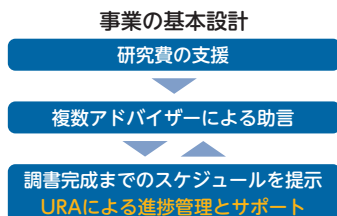


2日目は研究マッチングを求める6名の島根大学、島根県立大学、松江高専、米子高専の研究者によるショートプレゼンテーションを実施しました。連携機関の他、企業や他大学の方など総計30名の方にご参加いただき、発表者の方と参加者のうち希望された方と個別ディスカッションを行いました。ここでは研究内容に関する質疑応答や、具体的な共同研究に向けた話し合いが行われました。

若手女性研究者を対象とした 科学研究費補助金 獲得支援事業

この事業は、若手女性教員による科研費獲得を支援することを目的として、本年度から新たに開始したものです。採択者10名には、応募する科研費に応じた額の研究費を支援するとともに、複数名の科研費アドバイザーによる助言を受けることを義務付けました。

この支援事業の結果、支援した10名のうち8名が令和3年度科研費に採択されました（基盤研究（B）：2件、若手研究：6件）。



採択者からの喜びの声の一部

- ・やはり素晴らしいご研究をされている先生方からのアドバイスは大変勉強になりました。貴重な機会に感謝しています。研究者からのご助言とご教示は、内容と見せ方の両面で勉強になりました。
- ・申請書作成をご指導いただき、本当にありがとうございます。申請書を書いてたくさん学ぶことができました。今後は研究をもっともっと発展させます。本当にどうもありがとうございました。
- ・先生方に申請書を添削いただいたことにより、昨年度まで出していた申請書と実際にやりたいことはほとんど同じ内容で採択されました。書き方について、勉強になりました。これから、頑張っていきます。

国際学術雑誌投稿支援事業

2020年度は3件採択し、論文投稿料、英文校閲料等の関係経費を支援しました。

島根大学女性教員メンタープログラム

一定の職務経験を持つ教員との交流を通じて、新任（着任後5年未満）の女性教員が大学教員として成長していくことを支援する、島根大学女性教員メンタープログラムを導入しました。詳細とお申し込みはHPよりお願いします。



研究サポーター制度

育児や介護等によって研究時間の確保が困難な研究者に対して、大学が配置した研究サポーターが研究の補助業務を行う研究サポーター制度を実施しています。2020年度は9名の教員が利用しました。

子育て学生ランチ会

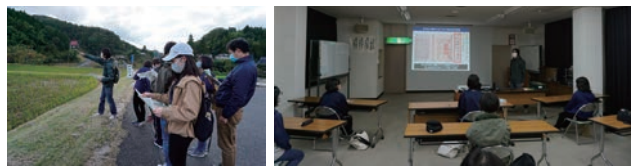
毎週水曜日、子育て学生オンラインランチ会を実施しています。これは、子育てしながら学ぶ学生同士の交流の促進と情報交換を目的としたものです。参加希望等のお問い合わせはダイバーシティ推進室までお寄せください。

奥出雲たたらツアー～日本刀を産み出した自然資源～

2020年10月24日（日）「奥出雲たたらツアー～日本刀を産み出した自然資源～」を実施し、女子中学生2名、女子高校生3名の参加がありました。

会場の多根自然博物館学芸員菅田康彦氏より、たたら製鉄の原料である砂鉄が取れる地質について学んだ上で、実際に砂鉄に酸化還元反応をさせ真ん丸の鉄を作るワークショップを行いました。続いて、奥出雲町農業振興課戸後吾氏より、伝統的な知識に基づいた土地利用と棚田景観について学んだ後に、博物館周辺の棚田見学を行いました。

最後はSUN'IN Girlsメンバー（本学総合理工学部2年生）2名をファシリテーターとした進路選択や将来のキャリアについてのプレゼンテーションを実施しました。参加者からは「進路を考える良い機会になった」「将来やりたいことを見つけるために頑張りたい」など前向きな感想が聞かれました。



SUN'IN Girlsによる小学校での出前授業

2020年11月20日（金）、SUN'IN Girlsによる市立持田小学校での出前授業を実施しました。この取組は、理系進路選択促進の一環として実施され、小学生は牛乳パックの工作を通じて建築デザインの学びに触れました。



女性研究者キャリアトーク

島根大学 公開授業 教養科目「人と職業」の一環として、女性研究者キャリアトークを2020年12月24日（木）16:50～18:30にオンラインにて開催しました。

当日は、52名の学生が参加し、ゲストとして児玉有紀先生（島根大学 生物資源科学部 生命科学科 准教授）と、秋吉渚月さん（島根県産業技術センター 生物応用科 主任研究員）をお招きし、対談形式でお話いただきました。

学生は、両氏の研究への情熱や仕事に対する姿勢に触れ、理系の学生だけでなく文系の学生も、自身の卒業後のキャリアを考える上で大きな学びを得ることが出来ました。

ミャンマーにおける保健医療アクセス向上に挑む ～国際的に活躍する女性ロールモデル～

2021年3月23日（火）13:30～15:00に「ミャンマーにおける保健医療アクセス向上に挑む ～国際的に活躍する女性ロールモデル～」を開催しました。

当日は、特定非営利活動法人AMDA社会開発機構の山上正道氏と、中外製薬株式会社渉外調査部の原田亜弥氏をお招きし、学生計26名の参加がありました。

参加した学生は、お二人のご経験と仕事に対する姿勢から、今の自分にできることは何か、社会の役に立つ仕事を自分自身に引き付けてどのように考えればよいかなど多くのことを学ぶことができました。

刊行物紹介

※各刊行物について、入手をご希望の方はダイバーシティ推進室までお問い合わせください。



Women Role Models in Science Vol.5

2019年度に作成した、「ロールモデル集vol.5 理系進路を選択した先輩女性からのメッセージ」の英語版を作成しました。



多様な研究者を採用するために～研究者採用ガイド～
女性教員の積極採用と上位職登用について先進的な取り組みを実施している岩手大学の事例を参考に、作成しました。



若手女性研究者の育成を推進するグッドプラクティスQ&A集

女性教員を採用した経験のある理系学部の上位職教員に対して実施した聞き取り調査を元に、島根大学の独自の取り組みとして作成しました。



公立大学法人
島根県立大学

看護管理者のネットワークを促進する「カタリバ」

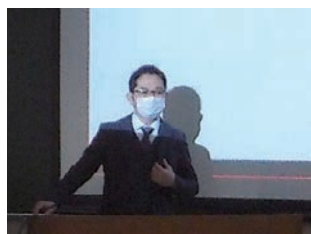
インターネット上で看護管理者同士のネットワークづくりを目的として、「カタリバ」を2回実施しました。1回目は2020年12月9日(火)に「コロナ禍時代の新人看護師教育に備える」、2回目は2021年3月21日(火)に「中間管理職・スタッフの成長と促進について対話を通して考える」というテーマでワークショップをしました。日頃、病院内で自分の体験や悩み、気持ちを語れる場が少ない看護管理者にとって、組織を超えてつながる場は知の共有だけでなく、共感と元気をもらえる有意義な場となったようです。2021年度も定期的に相互交流・相互学修の場として「カタリバ」を開催するとともに、「看護管理者版eポートフォリオENISHII」を活用してマネジメント力向上に取り組む予定です。また、島根県内にある病院の看護管理者がつながり、上位職への昇任を目指して頑張れるよう「しまね看護コンソーシアム(仮称)」を立ち上げる予定となっております。島根県看護協会及び島根県健康福祉部医療政策課の協力も得ながら進めていきます。



独立行政法人国立高等専門学校機構
松江工業高等専門学校
National Institute of Technology, Matsue College

男女共同参画研修会(12月、2月)

2020年12月7日(月)・8日(火)に、全教職員を対象として「ダイバーシティ研修」を開催し、77名が参加しました。2021年2月24日(火)には、管理職的立場にある教職員を対象としてハラスメントの防止に向けた研修を開催し、16名が参加しました。参加者に対して、各学科・所属部署においても同様の研修を実施するよう依頼しました。



松江高専わくわくtalking

教職員が働き方等について自由に語る懇談会を2021年2月1日(月)に開催し、仕事の分担や休暇制度について、参加者から様々な意見が寄せられました。



令和2年度一般社団法人松江テクノフォーラム「企業紹介」ダイバーシティ特設ブース

2021年2月12日(金)に一般社団法人松江テクノフォーラム主催の令和2年度「企業紹介」において、女性技術者・女性研究者の活動について紹介いただくための特設ブースを設け、6社の方にご発表いただきました。

この活動は、地域の企業にお勧めの女性技術者・女性研究者の姿を提示することにより、本校学生が将来像をより具体的に考えるための機会を提供することを目的として実施しました。今年度はZoomを使って開催され、6つの企業ブースに対してのべ86名の学生が参加しました。



男女共同参画(キャリアアップ)講演会

米子高専では、女性教員のキャリアアップ指針となる講演会を、女性研究者、女性エンジニア、女性起業家などを講師に迎え開催しています。令和2年度は以下の講演会を実施しました。



2020年12月2日(火)
講師：東京工業大学リベラルアーツ研究教育院 多久和理実氏
演題：科学者たちが残した実験をたどる

2020年12月23日(火)
講師：公立鳥取環境大学経営学部 竹内由佳氏
演題：What is Marketing?! ～こんなところにも“売る”仕組み?!

2021年1月21日(木)
講師：小泉八雲記念館館長・島根県立大学名誉教授 小泉 凡氏
演題：「小泉八雲について」

進路研究セミナー

米子高専では、大学担当者との直接面談による、大学院博士課程進学選択へのキャリア教育を含む進路研究セミナーを開催しています。

同イベントは、毎年、高専単独開催の進路関係イベントとしては全国最大級のイベントとして開催されており、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、2021年1月23日(土)にオンライン形式での開催となりましたが、今年も約200の企業とともに18の大学・大学院にご参加いただき盛況に開催されました。学生は、自宅に加え、学校のインターネットを利用して参加し、大学等の担当者からの説明に熱心に聞き入っていました。

